

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年10月1日現在
(専技情報より抜粋)

◇普通期水稻(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)◇

「夢つくし」の収穫は9月末までにほぼ終了しました。

穂数は平年並みですが、出穂後の長雨による内穎褐変病やいもち病が発生し、日照不足による登熟歩合の低下から収量は平年よりやや少なかったです。

品質は、高温障害による白未熟粒は少ないですが、8月の日照不足の影響で、充実不足が見られますが平年並みです。

現在、「元気つくし」の収穫中で、終了は10月7日頃の見込みです。

収量は平年並みの予想です。

「ヒノヒカリ」の収穫は10月3日頃から開始される見込みです。

早期落水は充実不足を助長するので避けましょう。

成熟期に達した「元気つくし」は、直ちに収穫しましょう。

「ヒノヒカリ」以降の品種は、出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して収穫を開始しましょう。

◇大豆(フユカ)◇

現在、莢伸長期～子実肥大期です。

8月～9月の多雨により雑草は多く、台風14号の影響により、一部で倒伏や潮風害が発生しています。

8月以降の多雨、日照不足の影響で、湿害が発生して、莢数は平年よりやや少ない傾向です。

ハスモンヨトウの発生は、9月中旬から増加し、9月下旬に防除を実施しました。

本年度は、べと病の発生が多いです。

排水口を整備してほ場の表面排水を促しましょう。

本年は、降雨が多いため、紫斑病の対策を徹底しましょう。

カメムシ類は発生状況に応じ、対策しましょう。

雑草は早めに除去し、ほ場内への雑草種子落下を減らしましょう。

◇青ネギ◇

生育は概ね順調ですが、8月中旬の大雨による生育不良、品質低下の影響が一部で見られ、今後の出荷量はやや減少の見込みです。

また、台風14号の影響により、ビニルが破損したハウスでは倒伏や葉傷みが見られます。

チョウ目害虫の発生が散見されますが、全体に病虫害の発生は少ないです。
かん水過多は、徒長を誘発するので土壌水分管理に注意しましょう。
チョウ目害虫およびアザミウマ類等の害虫対策を徹底しましょう。

◇施設キュウリ◇

抑制作型は、8月上旬を中心に定植しました。
大雨で浸冠水被害を受けた産地では、8月下旬から9月上旬にかけて植え替えを実施しました。
8月の寡日照により、草勢がやや弱い状況でしたが、現在の生育は回復傾向です。
9月上中旬の出荷量は例年並みで、12月上旬まで出荷の見込みです。
アザミウマ類、コナジラミ類、チョウ目害虫の発生がやや多く、一部産地では、ミナミキイロアザミウマが媒介する黄化えそ病の発生が増加傾向です。
促成作型は、例年どおり10月上旬から定植を開始、定植ピークは10月中旬となる見込みです。
黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマや、退緑黄化病を媒介するタバココナジラミの対策を徹底しましょう。
促成作型は定植前には場周辺の雑草除去や防虫ネットの設置の点検を行いましょう。

◇ブドウ◇

出荷はほぼ終了しました。
開花期の天候不良により露地「巨峰」で結実不良が多発したほか、8月以降の多雨により、裂果や脱粒の多発および晩腐病等の病気が発生し、出荷量は平年より少ないです。
また、梅雨明けが早く、高温傾向で推移したことから出荷時期は大幅に前進しました。
収穫後は、礼肥を早期に施用するとともに、べと病、トラカミキリ等の病虫害対策を徹底しましょう。

◇キウイフルーツ◇

「レインボーレッド」は9月25日から30日に収穫しました。
かいよう病の発生による園地の減少により集荷量は前年より少ない見込みです。
「甘うい」は10月上旬から中旬にかけて収穫予定です。
8月中旬の大雨により根傷み、早期落葉等が一部で発生し、減収する園もみられるが、全体的な集荷量は258 t程度と前年より多い見込みです。
「ヘイワード」は11月上旬から収穫予定です。

結実は前年より多く、肥大も平年より大きい傾向で推移しています。

集荷量は3,000t程度と前年より多い見込みです。

収穫果実は、果実温が上がらないように日陰に置きましょう。

また、大雨による根痛み、早期落葉や、台風による落葉が見られる園地では、日焼け果の発生に注意しましょう。

果実が濡れると、腐敗しやすくなるため、雨天の日には収穫しないようにしましょう。

◇施設ギク◇

11月出荷作型は順調に生育し、9月下旬に電照を打ち切り、現在、花芽分化期です。

12月出荷作型の定植は、8月中旬の大雨の影響から1週間程度の遅延がありました。

しかし、定植後の生育はおおむね順調に推移しています。

夏秋ギクと秋ギクの品種切り換え時期は11月中旬～下旬の予定です。

早めにビニル被覆の準備を行い急な冷え込みに備えましょう。

夜温は、電照期間中は12℃、消灯前後は15℃を確保しましょう。

ウイルス伝搬を抑制するためアザミウマ類の対策を徹底しましょう。

◇ガーベラ◇

緊急事態宣言下でもスーパー等で販売される花束は安定しており、ガーベラの需要は堅調です。

出荷量、単価、販売金額とも前年より回復しました。

6月に新植した株からの出荷量が9月中旬より増加しています。

オンシツコナジラミ、ハダニ類の発生が多いです。

アザミウマ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病、灰色かび病の増加に備えて、対策を徹底しましょう。

10月中旬には二重被覆等の準備を行い、急な冷え込みに備えましょう。

◇肉用牛◇

緊急事態宣言延長の影響で外食需要の低迷が続いているものの、堅調な輸出推移や出荷頭数が前年より下回る見込みで、枝肉単価は前年ほど落ち込まずに和牛去勢が前年比116%、過去5年平均比103%と例年並みの価格となりました。省令価格も、同様の理由で前年比108%、過去5年平均比101%となりました。夏バテの影響が顕著になる季節なため、家畜の状態に注視し、疾病の発生を予防するために農場衛生管理を徹底しましょう。

サシバエが増える時期で、発生状況に応じて対策しましょう。